

臨時総会(兼秋季会員大会) 高木会長挨拶

当会の会長を務めております高木でございます。

会員の皆様には、日頃から当会の活動にご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

また本日はご多用中にもかかわらず、このように多くの会員の方々にご出席をいただき、臨時総会兼秋季会員大会を開催することができましたことを心より感謝申し上げます。

さて、本年4～10月の当会会員生産台数を見ますと、エコカー購入補助金制度の効果もあり、全体では前年比13%増の130万8千台となっていますが、2年前の同時期比較では、24%減となっています。

また、小型車などの委託生産車を除く当会特有車種は、前年比19%増の6万台となっていますが、2年前の同時期比較では、33%減にもなっています。しかもこれを月別に見ますと、大型車等のポスト新長期排気ガス規制の適用による値上げ影響も加わり、9月は前年比4%減、10月は10%減と急激に落ち込んでおります。

落ち込みがいつまで続くか、が一番の関心事かと思いますが、本日は後ほど日野自動車(株)で国内販売を担当されている松村部長にご講演いただくことになっていますので、ご意見をお聞きしたいと思っております。

さて、当会の正会員の加入状況は、昨年度は5月の通常総会で申しましたように6社入会、2社退会で4社増加となりましたが、本年度も既に新入会が5社もあり、退会が2社ありましたが、3社増加となっています。退会理由は厳しい経済環境の中で解散や廃業というやむをえない理由であり、

入会の主な理由は「厳しい経済環境の中だからこそ、車体工業会を通じていろいろな情報を入手したい」とのことであり、その期待に応える責任を強く感じております。

それでは、当会の事業計画の上期実績について簡単に述べさせていただきます。今年度は「会員への支援活動の充実」「安全対応活動の推進」「環境対応活動の推進」を重点に活動してまいりました。

まずは一点目の「会員への支援活動の充実」ですが、昨年同様、技術面での支援で成果が出ております。昨年からスタートしました「改造自動車取扱いの解説書」を全面改定する活動も、ほぼ原稿がまとまり、計画通り3月には発行できる見込みとなりました。ページ数も3割程度増やし250ページ以上の本となりますが、最新の技術動向にあった、使い易い内容に改訂され、皆様の日常業務に大いに役立つものと考えています。

また会員への情報展開の面では、新たに始めたリコール情報の分析、展開や環境対応事例の情報展開が充実出来たと考えています。

二点目の「安全対応活動の推進」では、7月にバス車体規格集の改訂版を発行することが出来、JABIA規格の今年度の新設4件、改訂1件も順調に進んでおります。また、今年度の調査研究活動はトレーラのROC（横転抑制装置）の評価方法の策定やリアバンパーの共同開発など8項目に取り組んでおり、一部に遅れはありますが、総じては順調に進んでいると判断しています。

最後の「環境対応活動の推進」では、CO₂、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆さまのおかげで今年度目標もほぼ達成出来る見込みとなりました。また昨年から検討を進めてきました「環境基準適合ラベルの内容充実」、

これは通称「ゴールドラベル」と呼んでいますが、この内容もほぼまとまり、来年度からスタートできる見込みとなりました。

さて、本日は、例年の秋季会員大会だけでなく、臨時総会も兼ねさせていただきます。5月の通常総会時に説明させていただきましたが、現在の公益法人は「新しい公益法人か、一般法人か」のどちらかに移行が必要になっております。当会は既に通常総会におきまして一般法人化が決定しておりますが、具体的な移行申請には、定款の変更が必要であり、定款変更には総会の決議が必要なため、開催させていただくものです。

定款変更に関しましては、理事会におきまして十分に検討を重ね、案がまとまりましたので、皆様のご審議をお願いいたします。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とますますのご発展を祈念いたしまして、ご挨拶にかえさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。